

# 北九州医療・介護連携プロジェクト会議 第8回合意事項等

日 時	令和2年3月27日（金）19：00～20：30		
場 所	北九州市役所 3階 大集会室		
参加者	北九州市医師会	安藤 文彦	○
	福岡県介護老人保健施設協会北九州ブロック	犬塚 寛	○
	小倉医師会訪問看護ステーション	加藤 ひとみ	○
	福岡県看護協会	閑地 敦子	○
	北九州市薬剤師会	佐藤 千穂	欠席
	北九州市歯科医師会	重藤 弘之	○
	ケアマネット21	白木 裕子	○
	小倉在宅医療・介護連携支援センター	白土 健司	○
	北九州高齢者福祉事業協会	曾我 満美	欠席
	福岡県作業療法協会	玉野 和男	○
	福岡県介護支援専門員協会	坪根 雅子	○
	福岡県医療ソーシャルワーカー協会	藤好 正和	欠席
	福岡県理学療法士会	山内 康太	○
共有事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「とびうめ@きたきゅう」全市展開に向けた各種説明会：日程や開催できない場合の代替案などを共有</li> <li>○病院窓口ガイド：公開中の80病院をまとめた冊子を各病院に配付した。修正し、次年度介護関係者にも配布する。</li> <li>○とびうめ導入状況、病院連携会議参加状況を共有</li> </ul>		
協議事項1 モデル実施結果（案）	<ul style="list-style-type: none"> <li>○登録申出の説明にあたり、特段のトラブルはなかった。現場から、とても重宝しているという声を聞く。</li> <li>○モデルから効果があることはわかる。全市展開となる前から、申出書の取得ができることを早めに周知してほしい。また全市展開時は、小規模多機能の事業所にも周知をしてほしい。</li> <li>○診療所の取得数は多いが、限られたクリニックが頑張っている。広く会員に取得の協力を依頼していく。</li> <li>○救急時にメリットのあるシステムと思われがちだが、療養型の医療機関で活用できるモデルとして西野病院の事例は良かった。</li> <li>○老健施設での取得が少なかった。在宅に帰すときには安心できるシステム。全市展開のときにはもっと広めていきたい。</li> <li>○とびうめ@きたきゅうが、北九州市のスタンダードとなるように、登録者数の増加など今後もすすめていきたい。</li> <li>○救急隊の活用は、登録者が増えて検索にヒットするようになることが前提ではあるが、北九州市全体ですすすめているシステムなので、できるだけ前向きに進めてほしい。</li> <li>○モデル実施結果（案）を承認し、6月からの全市展開を前提に、事務局が関係団体への報告・周知を行うことに合意を得た。</li> </ul>		
協議事項2 登録申出書の構成について	<ul style="list-style-type: none"> <li>○全体としてわかりやすくなった。</li> <li>○市民が直接、郵送して提出できるようにもしている。</li> <li>○市・市医師会・県医師会の事業なのに、表紙にある連絡先が福岡県メディカルセンターとなっていて混乱する。連絡先について再検討してほしい。</li> <li>○指摘のあったところを変更したうえで、全市展開時版とすることに合意を得た。</li> </ul>		

<p>協議事項3</p> <p>「とびうめ@きたきゆう」の取り扱いについて</p>	<ul style="list-style-type: none"><li>○今すぐとはいかないが、医療機関だけでなく他職種でもシステムを活用できるようになるのが理想形。</li><li>○焦って広げる必要はないので、他の職種でも情報に対する意識統一や活用方法をしっかり検討すべき。</li><li>○職種によって、閲覧できる情報を変える（一部制限する）などの方法を検討することも考えられる。</li><li>○地域包括支援センターは、緊急訪問や災害時などで活用する必要性が高いため、閲覧対象として認めることに合意を得た。</li><li>○取り扱い（案）について合意を得た。</li></ul>
---	--